『教授法(おしえかた)～新しい挑戦～』

「教室で言語や人の多様性をどう扱うか－「共通語」と LGBT についての意見交換」

¿Cómo tratar la diversidad de lenguas y personas en el aula? --- intercambio de opiniones sobre el "español común" y LGBT

第 119 回 TADESKA　2018 年 7 月 1 日
於　関西学院大学梅田キャンパス
担当者　江澤 照美(愛知県立大学)

今回のワークショップでは言語および人間の多様性に関わる 2 つのテーマを扱った。ただし、教授法を正面切って取り上げたわけではなく、これまで charla のテーマとして取り上げられる機会があまりなかったと思われる話題についての意見や情報の交換をメインの活動とした。

なお、2 つのテーマ自体は直接の関連性を持たない。担当者は多様性というキーワードのもとに 2 つの異なるテーマを選んだ。したがって、charla では 2 つのテーマを別々に扱った。

ただし、この 2 つのテーマには類似点がある。どちらも新しいテーマであるが、スペイン以外のスペイン語圏の人々が話すことばや LGBT の人々は目新しい存在ではなく、近年になってその存在が意識されはじめた。担当者は 2 つのテーマのいずれも教育学的観点から今後研究を進めていくつもりである。

Tema 1　「共通語」と入門・初級レベルのスペイン語教育

ここで「共通語」と述べるのは、いわゆる el español neutro (cf. Llorente Pinto (2016)など)を指す。しかしながら、ワークショップにおいては「共通語」の具体的な内容に踏み込まず、主として教育的観点から、日本国内で教鞭をとるスペイン語教師はスペイン語の多様性について教室でどこまで扱うべきなのか、について意見交換をおこなった。

意見交換の前に、担当者から RAE の施策の変遷、CEFR の複言語・複文化主義などの世界的な傾向を紹介し、

－日本の入門・初級レベルのスペイン語教育は、近年スペイン語圏で意識されているスペイン語圏の言語や文化の多様性を十分に反映していると言えるか？
－教師として自分が特定の地域のスペイン語を教えていると思っているか？

という二つの問いかけから議論を深めていった。

Llorente Pinto, María del Rosario（2016）¿Qué es el español neutro?　*Cuadernos del Lazarillo* 31, Asociación Internacional de Traductores, Intérpretes y Profesores de Español, AITIPE, 77-81.

Tema 2　LGBT への理解とスペイン語教育

教育現場における LGBT 対応については、近年研究が始まったばかりであり、文献やネット検索によって得られる情報が日々増えている。しかし、例えば LGBT とは？という基本的な定義ひとつをとってみても文献によって多少定義が異なる場合があり、最も信頼のおける文献や web サイトの存在がこの問題を理解しようと試みる入門者にとってわかりづらい。

担当者は上記のような定義の難しさの他、自治体や教育機関における近年の取り組みについてごく一部ではあるが紹介した。その後、以下の話題について意見を交換した。

－　教える内容について
－　教師としての心構え、留意事項
－　その他　（教育機関における配慮の例など）

1 つ目の「教える内容について」はスペイン語やスペイン語圏の文化に関わるが、残り 2 つはスペイン語に限定せず、語学教育もしくは教育一般に関わり、参加者の多様な意見や心構えについて大変興味深い話を聞くことができた。　（文責：江澤）